

小学校との手紙交換	(2) 小学校との連携・交流
公立保育所	千葉市新宿保育所
<実施時期>	11月～
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>	
「自立心」「協同性」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」	
<活動のきっかけ>	
<ul style="list-style-type: none"> ・就学時健診や小学校校庭探検で行った小学校で、保育所との違いをたくさん見つけた子ども達。 ・例年であれば小学校訪問や小学生との交流の中で質問していたが、行くことができない為、代わりに手紙を書いて聞いてみようということになった。 	
<活動のねらい>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への興味を広げ、就学に期待を持つ。 ・小学校について知り、身近な存在に感じられることで、円滑な接続を目指す。 	
<経験する内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に小学校へ行って気づいたこと、疑問に思ったことを一人一人に聞いたり、友達と伝え合ったりして共有する。 ・小学校へ質問したいことを、グループに分かれて話し合い、協力して手紙を作成する。 ・文字の書き方を絵本や表で調べたり、保育士や友達に教えてもらったりして手紙を書く。 	
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>	
<ul style="list-style-type: none"> ・実際の訪問や交流が難しい為、手紙を通じた交流でやりとりを行い、小学校について知る機会を作った。 	
<活動の内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への質問を書いた手紙を、小学校へ届けた。 ・小学校から届いた返答を、子ども達に伝えた後、活動の様子や実際の手紙を壁新聞にして掲示し、子どもや保護者に見てもらった。 ・「教室の広さはどれくらいですか？」等、実際に見ないとわからない質問については、保育士が小学校へ訪問して校内をビデオやカメラで撮影し、保育所内でビデオの映像を見たり、写真を貼り出したりして、視覚でもわかるように紹介した。 	

<活動でみられた子どもの姿>	<環境構成・教材や保育者の援助等>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの手紙が小学生に届くことを喜び、たくさんの質問が出てきた。 ・グループの中で、役割を分担しながら、主体的に活動を進めていた。 ・小学生からの返信に興味を持ち、意欲的に保育士の話の聞いたり、壁新聞を見たりしていた。 ・小学校には時間割があることや、給食を食べる時間（25分程度）が決まっていることを知り、時間を意識しようとする子が増えた。給食を食べ終わりや片づけ等、早くなった。 ・保育所と小学校との違いについて、一人一人の気づきを友達と話し合うことで、個人では見つからなかった部分も気づくことができていた。 ・ビデオ上映会では、撮影した小学校以外の就学先の子どもからも、「自分の行く小学校ではこうだった」と会話が盛り上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でのグループを設定し、自分の意見を伝えたり、話を聞いたりしやすいようにした。 ・ひらがなが大きく書かれた絵本や、五十音表を用意し、調べたり見ながら書けるようにした。 ・保護者懇談会時に、子ども達の活動や小学校からの返事を紹介したり、子どもと一緒に見やすい場所に掲示し、家庭でも小学校についての会話のきっかけとなるようにした。 ・今からできることは何かと子ども達に投げかけることで、時計を意識しながら時間の見通しを持てるようにした。 ・グループで話し合う機会を多く作ることで、自分の思いを伝えるだけでなく、年長児の課題であった相手の話を聞く力を身に付けられるようにした。 ・子どもの気づきに共感しながら、文字や壁新聞にして情報を発信することで、小学校を身近に感じ、親近感を持てるようにした。
<成果と今後の課題>	
<ul style="list-style-type: none"> ・できるところから小学校との関わりを積み重ねることで、小学校の話題が増え、期待が高まっていった。保育所と小学校の連携が出来ていないと、子ども達のための働きかけが難しいことを感じた。年度が代わるとお互いに職員の異動や交代があるため、作り上げてきた体制が振り出しに戻ってしまわないよう、引継ぎを強化する。 	
<カリキュラムコーディネーターのコメント>	
<p>コロナ禍で恒例の交流会が出来ない中で就学前健康診断や小学校の校庭探検などから小学校への関心をキャッチし、子どもたちの経験を積み重ねたことが、「小学校へ手紙を書いてみよう」という気持ちにも繋がりました。その手紙を書く、届ける、お返事を受け取るといった一連のプロセスをさらに、実際の写真等を用いて壁新聞、ビデオ映像視聴と活動を広げていった保育者の努力が子どもたちの大切な体験になったと思います。</p>	